

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4271401012		
法人名	社会福祉法人 幸和会		
事業所名	グループホーム なかよし		
所在地	〒859-1107 長崎県雲仙市吾妻町牛口名373-2		
自己評価作成日	平成22年2月14日	評価結果市町村受理日	平成22年4月6日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>法人母体となる病院に隣接しているため、急変や体調不良時、すぐに受診できるので、御家族や利用者が安心できる。毎月の行事や誕生日会など、利用者の方が喜んで頂けるよう、又、できる範囲でその方が出来ることを引出し、支援している。</p>
---

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成22年3月18日

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>今年度は入居者の新規入居、退去が続き、「入れ替わり」の変化で対応に目まぐるしい中で一人一人にあった接し方を模索してきた。母体病院と同一敷地内に独立した建物として立地するホームである為に医療のバックアップという点では隣接して安心が得られ、尚かつ家庭的で暖かな雰囲気がある。同法人内施設においても恵まれた二点のメリットに加えて、職員の異動が少なく馴染みの職員による支援で環境が安定していることで、今年度の状況に対応できている。困難な事例も、職員のチームワークによって支援に努め、今後も理念にある「家庭的な愛情」と「優しさ」をもって統一したケアにあたっていきたいとしている。比較的身体面では元気で自立されている入居者がいる為に、共同生活におけるサービス内容において人間関係がキーポイントとなることもあり、個性を大切にしながら新たな課題抽出に前向きに取り組んでいる。</p>
--

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示して、日常的に念頭において、支援に当たるよう努力している。	理念にある「家庭的な愛情と優しさ」のキーワードに沿った支援を意識している。意思の疎通が難しかったり、意向の把握や理解がうまくいかない時ほど、「やさしい声かけ」をしていきたいとして、不眠の入居者には添い寝をするなど心に寄り添う支援もおこなっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物の途中の近郊の方との挨拶から顔なじみの関係を作り交流している。	今年度は入居者の入れ替わりに伴う多忙とインフルエンザの影響もあり、町内文化祭の見学など予定通りに行かなかったこともあった。保育園との交流に努力しており、運営推進会議でも小学校のボランティア受け入れなど助言を頂いている。散歩は寒い時期も入居者の意向に沿ってよく出かけて挨拶を交わす近隣住民との付き合いも多い。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや中学生の福祉体験学習受け入れをしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業者からの報告とともに、参加メンバーから質問・意見・要望を貰い、その意見をサービス向上に活かしている。	法人内二事業所と合同で、二ヶ月に1回会議を開催している。家族、地域、行政の参加メンバーからいただけるホームの活動に対する意見もありがたいが、二つのホーム同士の貴重な情報交換の場としても会議を活用している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と連帯を取りながら、一緒に取り組んでいけるようにしていきたい。	運営推進会議においては、行政代表として一年毎に市役所担当課と地域包括支援センター職員が参加している。それぞれから得たい情報がある為に、会議をその接点として十分に活用していきたいとしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、外出傾向の強い利用者があり、安全に配慮して、やむおえず玄関に施錠している。 サッシ窓に二重ロックをしている。	地域社会の中での暮らしである以上、本来は施錠はあってはならないと強く認識しているが、行動予測が難しい状態と職員の人的配置でやむを得ない対処となっている。法人内他施設の見守りの協力応援もあるが玄関の開放には躊躇している。言葉の拘束については行動の制止となる強い口調になることを避けて、優しい尊敬の念を持った言葉かけに統一していきたいとしている。	入居者の強い外出の意向に対し可能な限り個別対応を行ない散歩に出かけたり、外出が出来ない時は言葉かけや話題の転換で納得して頂く努力も十分に行なっている。リスク優先の現在の対処のみならず、対応の努力を継続しながら徐々に施錠を解除する時間を設けるなど行動制限緩和の方向へ向かうことに期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の危険を早期に見つけ、関係機関と協働しながら、速やかに対応できるよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者・家族に「成年後見人制度」について、情報提供している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お互い時間に余裕がなく、十分な説明・納得ができていない。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会開催時や運営推進会議での、家族の方から意見・要望など尋ねる機会を設けている。	家族交流会は6月、1月と今年度は2回開催した。独居の入居者が増えて家族参加が減少傾向にある為に近在の親戚等に広げて案内を差し上げた。改善計画に家族との信頼関係構築を挙げて、リビングで共に会話する機会作り心がけており、状況が適えば昼食をお出しして共に食事をしながら気軽に話せるような配慮もおこなっている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、グループワーク開催時、意見・要望など話し合えるようにしている。	グループワークでは全職員参加でケアカンファレンスなど中心に様々な報告、連絡をおこない意見も活発に出せる場となっている。理事長、病院長、事務長、局長、各施設長らによるスタッフ会議後、理事長、通所施設、ケアプランセンター、グループホーム2事業所の各長によるミーティングも行なわれ、主に利用者に関する問題点を報告している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って、働けるよう努める。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ、たくさんの研修や勉強会等に参加できるよう機会を作っていく。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に、積極的に参加し、他のグループホームとの交流を通じ、一緒に学び親睦を深める機会を作るよう努力する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安・要望などがある場合、その都度、できる限りは、受け入れるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が安心して、不安等の意見を言えるような話し合いをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされるサービス希望されるサービスが受けられるよう事前に話す機会を作っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	穏やかに過ごしてもらえるように、一方的にならない話し方や態度に気をつけている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況が分かるように、月1回なかよし便りを出している。変化があった場合は、すぐ報告している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの行きつけの店での買い物、通いながれた道の散歩等を行っている。	外出傾向が強い方は家族の協力により、月に一度仏壇参りで自宅へ帰ることで落ち着きを取り戻され、果物の栽培農家で従事されていた方は、収穫時期には気になられると三日程帰宅されている。母体病院へは知人、友人が通院されているのでお会いできるよう受診日を合わせる配慮や、入院された知人のお見舞いにも伺っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、各自室で雑談されたりしている。トラブルがあった時は、職員が話を聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も遊びに来てもらう等、継続的な付き合いができるように心がけている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などから確認するようにしている。	情報共有が出来る記録書式を検討していたが、日勤、夜勤記録は職員の意見により現状のままで継続することとした。日常のコミュニケーションにおいては、やや聴覚が不自由な方が多く、大きな声で耳元で伝えても思い込みの強い方とは意志の疎通が困難な点は否めないが、思いに沿うことができるよう根気よく尋ねている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話をしながら教えて頂いたり、御家族に尋ね理解し把握するよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解するとともに、できないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聴き、反映させるようにしている。	担当職員が本人、家族の意向を聞き取り、計画作成担当者がプランを作成し、1ヵ月後に担当職員がモニタリングをおこない、グループワークにおける他の職員の気づきも取り入れながら新たな課題抽出をおこなっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、サービスの提供ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	意欲的に小さなことでも役割りをして頂き、散歩、買い物、その他、地域の方たちとの触れ合いを持って頂くようにしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診後、現在の病状や治療について話を聞き、家族との関係を築き、安心して頂けるよう支援している。	9名の入居者中、1名のかかりつけ医が遠方の為、家族支援で受診されている。他は全員が母体病院がかかりつけ医であり、職員支援で受診し、3週間に1回は循環器科の医師による往診もある。他科(専門科)受診も家族対応でお願いしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のバイタルチェック、症状等訪問看護師に伝えたり相談し、異常があった場合、受診をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際、症状、体調の変化を記録し、病院関係者との情報交換に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師から連絡があった場合、死後が近付いた利用者が、安らかに死を迎えるまでの時間を過ごすため、悔いが残らないよう支援する。	医療対応が必要でなければ重度化、終末期支援は可能であるとしているが、家族の協力も同時に不可欠であることも伝え、家族が宿泊される場合の対応もおこなっている。母体病院と同一敷地内ということで急変時の処置などについては家族、職員とも安心が得られている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒されたときの声かけ、意識はあるか、軽い症状で少し痛みがある時の応急手当、冷シップ。症状により熱がある時、クーリング、様子を見ながら交換を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行っている。	今年2月にスプリンクラー設置が完了し、3月には新しく設置した火災報知機の点検を兼ねて消防署立会いの訓練を予定している。隣接の母体病院等の応援はあるが、居室にいる入居者の避難誘導など夜間は不安であり、まずは出火原因となること、特に台所の火の始末の点検に細心の注意を払い火災防止に努めている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助が必要な時、本人様の気持ちを聴き、その時に応じた対応をしている。	排泄に関する言葉使いや、失禁時の対応に伴う言葉かけには配慮している。入居者とのやり取りの中で職員の声のトーンが気になるときは、職員間でクールダウンさせたり、言葉かけについては申し送り時やグループワークで情報共有し確認している。	個々で多少言葉かけや対応に差異があることは職員間でも気付きがある。近親の情からの言葉かけも、家族、第三者の受け取り方を意識したものか再考の機会はある。入居者と職員とのサービス提供における立場を考慮して、業務の振り返りと統一した支援がなされていくことに期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者同士で、不満を言っている時は、職員が中に入り、話を聞くようにしている。解決策を提案し、実行できるよう努める。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その賭金の本人の気持ちを尊重しながら、できるだけ個別性のある支援を行うようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは、基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。又、行事等日頃から、化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のお誕生日の時、好きな食べ物を聞いて、その日のメニューに取り入れている。食材切りや後かた付等利用者と一緒にしている。	家庭的な暖かさが伝わる食事を提供し、職員も共に食卓を囲んでいる。職員が採ってきたアサリを「美味しいね」と会話と共に味わう光景や、入居者と共に切干大根作りや梅干を漬ける等、ホーム全体で食を楽しむ支援を大切にしている姿勢が伝わる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。献立のメニューを隣接の病院の栄養士から貰っているため、栄養バランスが取れている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は、声かけ・見守りをし、できない方に関しては、毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止などにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間、尿取りパット使用の人でも可能な人は、昼間ははずして、トイレで排せつできるよう支援している。	トイレを使用すること、布の下着で過ごすことを目標として排泄の自立支援をおこなっている。冬は更衣の負担も考慮して用心の為、一部リハビリパンツ、布パンツに尿とりパット使用の方もいるが、夏は出来る限りパットなしで過ごして頂いた。日中は全員トイレを使用し、夜間は一部安全の為にポータブルトイレを使って頂いている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をしてもらったり、散歩、テレビを見ながらリハビリ体操等行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望されるように、早めに入ったり、遅く入ったりしてもらっている。入浴されない時でも足浴や清拭を行っている。	入浴は毎日午後から対応しており、状況に応じて職員2名で各々支援し二つの浴室を使用している。入浴を拒まれる場合は、清拭、足浴、更衣をおこない、清潔保持に努め、様子をみて声かけをおこない入浴していただいている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。又、一人ひとり体調や表情、希望などを考慮して、ゆっくりきゆうそくができるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明をファイルに保管し、全職員に分かるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯物たたみ、食器拭き等できることをしてもらっている。おやつ、手作り弁当等一緒に作って、外で食べるなどして、気分転換を図っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人別行動はできないが、体調のいい日や天気がいい日には、買い物、散歩、ドライブに出かけている。たまに、家族の方と一緒に出かけている。	意向に沿った外出は家族の協力も得て支援に努めている。昨年9月までは入居者の入れ替わりや体調面で不安定な方が多く外出がままならなかったが、状況が改善に向かったところでインフルエンザ流行の影響にも配慮しながら積極的に散歩に出たことで外気にふれる機会が増えた。今後は外食も検討し計画していきたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は、事務所で預かり、管理簿をつけ、管理している。本人の要望があれば、現金を渡し、職員と一緒に買い物、用事などに出かける。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、本人が直接電話できるようにしている。促す時もある。字を書ける方は、手紙のやり取りをされている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節や行事にあった置物や花を飾り、家庭的な雰囲気を出すようにしている。	キッチンも一体化した食堂兼居間はホームの中心である。天気のよい日には大きくとられた二面の窓からの日差しで明るく、一角の畳の間も家庭的な寛げる空間で食事や入居者の昼寝に利用している。食堂の大きな丸テーブルの中心には季節の花が飾られ、窓辺の観葉植物が癒しを与えてくれる居心地のよい集いの場である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ソファ、和室などで、それぞれ自由に過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、使い慣れたものや愛着のあるもの、家族の写真や絵などで居心地よく過ごされている。	備え付けのベッド、洗面台の設備がある明るい日差しの注ぐ居室である。独居でいらした方は、筆筒などの家具や調度品といった持ち込みも多く、馴染みのものに囲まれたその方らしい空間がつけられている。新規入居の方も鉢植えの植物が窓辺におかれ家族の協力で寛げる居室作りがなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の「現在の状態」に応じた生活環境の改善に取り組んでいる。		